

浅田宗伯 医案②

日本橋通四街、薬舗紀伊国屋伝兵衛女。奇証を患う。其の始めは神思鬱々として楽しま
ず。時々昏冒、搐搦反張すること瘧病の如く、
又癩発の如く、須臾にして醒覚し、大熱を發
し、忘語す。後一睡し其の熱洗うが如く精神
常に復す。或いは抑肝散、沈香天麻湯の類を
服し、或いは甘麦大棗湯、苓桂朮甘湯を服し、
或いは阿片の類を与えて依然たり。余、其の
発する時を診するに、物ありて小腹より心下
に衝突し、腹裏濤をうつが如く、病者之が為
に反張し、遂に昏憤に至る。然れども脈至つ
て沈緩、呼吸亦穩なり。余奔豚の一証とし、
奔豚湯を与え、其病半を減じ、發熱妄語止む。
但時々衝逆止まず、外台奔気湯を与えて全く
愈ゆ。